

2. 古代から続く「和の精神」

日本の古代史の中で聖徳太子は卑弥呼と並んで有名な人物です。聖徳太子についてはたくさんの不思議な伝説が残っています。例えば、聖徳太子の誕生についてはこんな面白い話があります。ある日聖徳太子の母親の夢の中に金色の僧が現れ、その僧が母親のおなかを借りたいと言います。その結果、母親は子供を身ごもり、男の子を馬屋の前で産みました。それが聖徳太子だったと言われています。これと似た話をどこかで聞いたことがありますか。他にも2歳の時に東を向いて念仏を唱えたとか、一度に10人の話を聞いて理解出来たとか、馬に乗って空を飛んだといった伝説が残っています。

成長した聖徳太子は、推古天皇という女性の天皇の政治を助けて、十七条の憲法を作ったと言われています。憲法という名前がついていますが、法律というよりは、仏教や儒教に基づいた道徳や生活の規範などが書かれています。この憲法の一番目に書かれているのが、かの有名な「和を以て貴しとなす」です。つまり「お互いに仲良くして、協力することを大事にしてください。」ということです。では、どうして聖徳太子は「和を以て貴しとなす」を十七条の憲法の一項目としたのでしょうか。日本では昔から「和」を大切にする考え方があったようですが、その当時は戦争が続いて世の中が混乱しており、たぶん「和」があまり大切にされていなかったからではないかと言われているます。

聖徳太子は架空の人物ではないか、また彼が本当に十七条憲法を作ったのかといった議論もありますが、「和」は、古代の社会にとどまらず、現代の日本社会でも大切な価値観の一つであることは変わりません。日本人の集団主義、すなわち、個人の考えよりも集団の考えを優先して、周りの人と協調するという考え方は、この「和」*の考え方に基づいていると言えます。最近では、個人の考えも大切にしたい方がよいと考えるようになりましたが、まだ集団主義の考え方は日本に強く残っています。もちろん和の精

神のみを強調するのはよくないと思いますが、社会生活をする上でみんなで仲良く協調することは大切だと考えられるので、^{しょうとくたいし}聖徳太子が大切に^{せいしん}した和の精神をこれからも大切にしたいものだと思います。

単語リスト：

聖徳太子（しょうとくたいし）	Thái tử	道德（どうとく）	Đạo đức
Shotoku (Thánh Đức Thái tử)		規範（きはん）	Quy phạm, tiêu chuẩn
誕生（たんじょう）	Sự ra đời	架空（かくう）	Ảo, hư cấu, không có thật
僧（そう）	Nhà sư	価値観（かちかん）	Quan niệm về giá trị
馬屋（うまや）	Chuồng ngựa	優先（ゆうせん）	Ưu tiên
念仏（ねんぶつ）	Niệm phật	集団主義（しゅうだんしゅぎ）	Chủ nghĩa tập thể
推古天皇（すいこてんのう）	Thiên hoàng Suiko, nữ Thiên hoàng đầu tiên trong lịch sử Nhật Bản		
憲法（けんぽう）	Hiến pháp		
儒教（じゅきょう）	Nho giáo, đạo Khổng		